



鉄道沿線からの森づくりと 鉄道林の保全

鉄道沿線からの森づくり

地域の皆さまにもご参加頂きながら
森づくり活動を進めています

1992年から毎年、鉄道沿線にボランティアにより植樹を行ってきました。2013年度までに延べ4.7万人が参加、約32.4万本を植樹しました。現在は鉄道沿線の枠を超え、地域との連携による植樹も実施しています。



鉄道林の保全と再生

JR東日本は、樹木の力を利用して鉄道を雪や風等から守るために設けられた「鉄道林」を沿線に保有しています。この鉄道林は沿線の環境保全にも貢献しており、安全と環境の2つの観点から今後も鉄道林の保全に努めます。

合計約4,000ha
(東京ドームの約850倍)



奥羽本線 神宮寺2号林(ふぶき防止林)

JR東日本で排出するCO₂の0.7%にあたる1.6万トンを吸収(2013年度実績)

防災と環境保全の両立をめざし、約20年計画で植え替えるプロジェクトが2008年からスタート。土地本来の種を混植させ、生態系として持続的なものにしていきます。